

「いのちをささえ、いのちをつなぐ医療の実践」



●十和田市立中央病院の特徴

1. 二次医療圏（上十三医療圏）の中核病院として、初期医療（プライマリケア）、専門的医療、救急医療、がん医療（緩和ケアを含む）、在宅医療（慢性疾患、高齢者、がん終末期、神経難病など）、急性期リハビリテーションなど幅広い医療を展開している。
2. チーム医療を積極的に推進し、緩和ケアチーム、褥瘡対策チーム、感染制御チーム、栄養サポートチーム、医療安全管理対策チーム、糖尿病フットケアチームなどの院内横断的チームが組織され、毎週ミーティングや病棟回診、定期的な勉強会を行い活発に活動している。
3. 脳血管障害に対する外科的治療および内科的治療の拠点病院として認知されている。
4. 「がん対策基本法」に基づいた“包括的がん医療”提供体制の構築のため、緩和ケア、外科的治療、がん化学療法、放射線治療それぞれの分野の充実を図るとともに、がん医療におけるチーム医療体制を確立し、医療を受ける人およびその家族の視点で全人的かつ包括的な医療を提供することを目標に体制の整備をすすめている。

特に、病院としてがん医療の基本理念となる緩和ケアの充実をはかっており、病棟においては緩和ケアチームが活発に活動しているほか、がん総合診療部門が終末期緩和ケアの入院治療及び外来治療を担当し、リンパ浮腫治療（リンパ浮腫治療室開設）、アロマ療法などの特殊治療も提供している。

また、地域緩和ケアチームの育成も積極的に行い、地域訪問看護ステーション、ケアマネジャーなどの連携のもと在宅ホスピスケアを積極的に展開している。



院内 緩和ケアチーム

ラウンドや検討会など、診療科を超えて組織横断的に活動している。

さらに、日本国内 10 台目となる最新放射線治療器トモセラピーが稼動しており、すべての治療分野において医療をうける人にやさしい治療を提供している。

5. 緩和医療に積極的に取り組み、緩和ケアチームが活発に活動しているほか、緩和ケア外来が開設され、リンパ浮腫治療、アロマ療法などが行われている。また、終末期がん患者の在宅医療（在宅ホスピスケア）の普及をはかっている。

6. 地域の二次救急医療を担当し、年間 10000 人近くの救急患者を診察している。

7. 病診連携、病病連携などの地域医療連携の他、地域福祉連携なども積極的に展開しており、また、地域のプライマリケアの研修病院として整備を図っている。



東北初の放射線治療器（トモセラピー）

通常の放射線治療に加えて、脳転移、肺転移、肝転移などの限局した局所病変や、前立腺癌などへの定位放射線治療が可能な治療装置